

1. 基本情報

評価対象年度（令和3年度）

施策コード	411	施策名	適切な土地利用の推進と住環境の整備
将来像	4	豊かな自然と調和した住みやすく活気あるまち（「基盤づくり」の分野）	
まちづくりの基本目標	41	快適で住みやすいまち	
主担当部	都市整備部	主担当課	都市計画課

2. 施策の方向

10年後の姿	豊かな自然環境に配慮した快適なまちづくりが進められ、地域の特性を生かした調和のとれたまちなみが広がっています。		
施策の方向性	1	住みやすく快適なまちをつくります	
	2	清瀬らしさを実感できる景観の保全・空間の整備を進めていきます	

3. 構成事業の状況

（単位：千円）

事務事業名	施策の方向性	担当課	令和3年度決算額
都市計画推進事業	1、2	都市計画課 道路交通課	14,437
区画整理事業	1、2	都市計画課	3,370
街路樹景観整備事業	1、2	水と緑と公園課 未来創造課 シティプロモーション課 道路交通課	8,459
住宅支援事業	1	都市計画課	3,019
防災対策事業	1	防災防犯課	127,210
総事業費（施策の合計）			156,495

4. まちづくり指標

指標情報						令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和6年度	令和7年度
①	名称	地区計画の策定数			目標値	5	6	6	6	7
	説明	—	単位	件	実績値	5	6			
	抽出方法	—			達成率	100.0%	100.0%			
②	名称	清瀬市の住環境は快適で自然への配慮と調和がとれていると思う人の割合			目標値	58.0	58.0	58.0	63.0	65.0
	説明	—	単位	%	実績値	60.0	60.0（※）			
	抽出方法	市政世論調査（令和2、5、8年度実施）			達成率	103.4%	103.4%			

※②抽出方法が世論調査のため、令和2年度の実績を記載している。

5. 評価（令和3年度実績に対する）

評価基準	評価※	評価理由
投入財源・成果（「3. 構成事業の状況」「4. まちづくり指標」）に対する評価	総合評価（成果、投入財源等を総合的に評価） 維持	●まちづくり指標の実績値は、地区計画の策定数が目標値に達成した。 ●東3・4・17号線沿道地区計画をはじめ、松山三丁目土地利用検討、特定生産緑地指定などの都市計画推進に関する事業や、区画整理事業については、ほぼ順調に遂行しており、健全な市街地形成の誘導が図られているものの、東3・4・16号線沿道地区計画の検討については、東京都との協議の上、策定期間を見直すこととなった。 ●住宅支援事業については、子育て近居支援事業は例年よりも若干多い申請件数となっており、住みやすく快適なまちづくりの推進の結果が表れているものと考えられる。また、木造家屋の耐震化に関する取組みに関しては、耐震相談会の申込みはあるものの、耐震化の実施に繋がるまでには至っていない。 ●街路樹景観整備事業については、けやき通りの倒木を未然に回避するため、ケヤキ46本の伐採等（伐採19本、強剪定27本）を行った。さらに、清瀬駅北口周辺のケヤキにとまる野鳥の糞害を防止するため、16本の剪定等（伐採2本、強剪定14本）を行った。 ●本施策の成果は、長期的に取組みが必要であることや、他の事業主体の取組みの影響を受けるため、進捗をコントロールし難い状況にあるが、現在のところ着実に推進できていると考えている。

※順調「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が順調に推移している
維持「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗に一部課題がある
停滞「10年後の達成に向け」、「構成事業の状況」や「まちづくり指標」の進捗が遅れている

6. 施策を取り巻く環境

令和3年度からの 変更点	未だ新型コロナウイルス感染症の収束が見えず、財政状況についても更に厳しさが増している状況にある中、昨年度に引き続き、市民参加型の事業推進に制約が生じる可能性がある。
-----------------	--

7. 施策を進める上での課題

①	施策を進める 上での課題	東京都における都市計画道路の整備方針(第4次事業計画)で選定された優先整備路線(東3・4・26号線、東3・4・13号線など)の沿道地区の土地利用について、都市計画マスタープランや各沿道の特性、地権者の意見を踏まえて検討する必要がある。
	課題に対する 令和5年度以 降の取組	市施行の東3・4・26号線及び東3・4・13号線、都施行の東3・4・15の2号線について、用地買収や整備の状況に合わせて、周辺の土地利用の検討を開始していく。
②	施策を進める 上での課題	清瀬駅南口等整備については、街の発展に伴い、人と車の交通量が変化する等、駅前広場の再整備や駅舎のバリアフリー化が求められている。また、東村山市の東3・4・27号線の整備に合わせ、秋津駅東側の清瀬8号踏切の安全対策を含めた道路整備を実施していく必要がある。
	課題に対する 令和5年度以 降の取組	清瀬駅南口等整備については、駅前広場の整備には莫大な財政支出と時間を要することから、まずは、駅舎のエスカレーター設置及びホームドア設置の要望を引き続き鉄道事業者に対し行う。また、秋津駅周辺地域については、東村山市の動向を注視しつつ、優先整備路線である東3・4・13号線の現況測量を検討していく。
③	施策を進める 上での課題	安全安心や快適なまちづくりの視点から、けやき通りのケヤキが高木化により倒木の危険を未然に回避するため、本数の削減や強剪定を実施している一方で、市のメインストリートであるけやき通りの景観を保持する必要がある。
	課題に対する 令和5年度以 降の取組	市のメインストリートである、けやき通りの長期的な景観のあり方について検討する。